本郷先生のご退官にあたって

本郷先生とのおつきあいは、それほど長い期間ではありませんでした。だが、日本語教育という未経験の分野に飛び込んで右往左往していた私には、実践の本道を歩み豊かな知識と経験をお持ちの本郷先生からの恩恵は計り知れない大きなものがありました。

毎年８月に行われたＪＥＴの教育実習を担当されるようになったときのことです。学生とともに準備がはじまり、さらに実施にあたるのですが、その周到綿密さもさることながら、暑さの中、夜おそくまで学生につきあっておられる熱意に深く敬服したものです。先生の体調に気遣いつつも、さしたるお手伝いもできぬまま、気をもんでいることがしばしばでした。外国人留学生、ことに日研生（日本語・日本文化研修生）には親身になって面倒をみておられました。毎年来校する十数名の日研生を、本郷先生と私とが担当教官となって世話をしていました。秋の徽音祭の定番、留学生によるエスニック・レストランの調理室には、朝早くから先生のエプロン姿が見られました。主導するのではなく、彼女たちの調理を手伝いながら、それとなく徽音祭への参加をもり立てているふうでした。そうした彼女たちは、とくに困難な問題や個人的な悩みなどは、担当を越えて先生を相談相手にえらんでいたようです。先生のご人徳のしからしむるところでしょう。それは外国人留学生のみならず、日本人学生の悩みの相談所でもあったようでした。

日本言語文化専攻に先生をお迎えしたころは、新設学科として日も浅かったため周囲の環境が整備されていなくて、ないないづくしの状態でした。やっと３階に学生控室が確保できたものの、本郷先生の研究室は用意できず、しばらくの間、留学生相談室の一角、教務補佐員と共有のコーナーに机を置くという有様でした。チューターや留学生が常時部屋を出入りするという落ち着かないなかで、研究や教育の上でご不自由なことだったろうと推察します。

先生はそんな環境のなかでも控えめで微笑みを絶やさず、いつも学生の方に目を向けて努めてこられました。日常の雑談のさい、ハーバード大学での輝かしいご経歴などが、先生ご自身の口から話されることはいっさいありませんでした。そんな先生の姿に、春風のような暖かさを感じていたのは私だけではないと思います。

先生のお人柄をあらためて想い起こしつつ御礼をもうしあげます。

本郷先生、ありがとうございました。

平田　悦朗